

(京都西北部・京都東北部)

京都・平安京跡右京三条一坊三町

1 所在地 京都市中京区西ノ京梅尾町

2 調査期間 一九九六年（平8）一〇月～一九九七年一〇月

3 発掘機関 財京都市埋蔵文化財研究所

4 調査担当者 伊藤 潔

5 遺跡の種類 都城跡

6 遺跡の年代 平安時代前期～鎌倉時代、江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

JR二条駅周辺土地区画整理事業に伴い、平安京跡右京三条一坊一町～八町の地の発掘調査をここ数年継続して実施している。

今回の調査地は平安京跡

右京三条一坊三町に位置する。周辺には宮の外に設けられた京職や穀倉院などの役所が置かれていたことが

文献史料から知られており、当該地は「拾芥抄」「西京図」によると右京職の所在が想定される場所である。

今回の調査で検出した遺構は、礎石建物・掘立柱建物・柵列・土坑・井戸・落ち込み・溝・瓦溜めなど、平安時代前期から鎌倉時代前半の遺構であるが、大半が平安時代前期に属する。礎石建物は、礎石の根石がわずかに残っている程度であるが、復原すると身舎が二間×五間の東西棟で、北側と南側に庇が付く。しかし、身舎が礎石建ち、庇が掘立柱という特異な構造の建物である。庇の柱には柱根が残っているものがみられた。建物は溝に囲まれ、その溝内及び北側・南側の整地層から、多量の遺物が出土した。

出土遺物には、土器（土師器・須恵器・黒色土器・綠釉陶器・灰釉陶器・輸入陶磁器・製塩土器）、瓦類、硯（円面硯・風字硯）、土製品（土馬・土鍤）、錢貨（富寿神宝・饒益神宝）、木製品（題籤軸・漆器など）がある。

今回報告する木簡は、「弘仁七年」（八一六年）銘の題籤軸で、調査区中央付近で検出した湿地状の落ち込みSK四六六から出土した。共伴遺物には、軟質綠釉陶器や九世紀前半の土師器などがある。

また、江戸時代の土取り穴群からも、墨書の認められる加工板片が三点出土したが、判読できない。

この他の文字資料としては、礎石建物周辺から出土した百点以上を数える墨書土器群がある。九世紀後半に属する灰釉陶器碗・皿、須恵器杯・皿・椀などの底部外面に文字が記されており、「右籍所」「籍所」「計帳所」「人給」などがある。これらの墨書土器はこの地

が右京職であることを裏付けるものであるが、「籍所」「計帳所」など文献史料にみえない部署の存在を示す点でも注目される。

8 木簡の釈文・内容

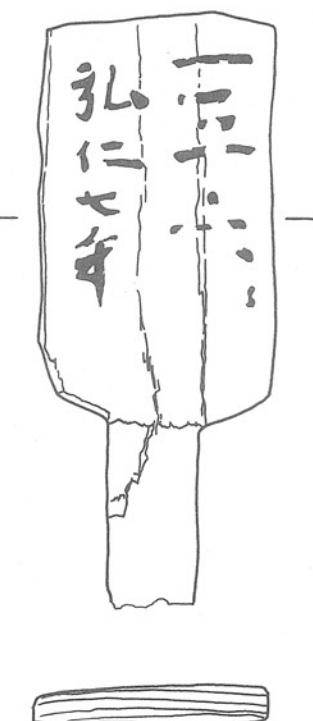
(1) • 「一三カ」
弘仁七年

• 「一三カ」
弘仁七年

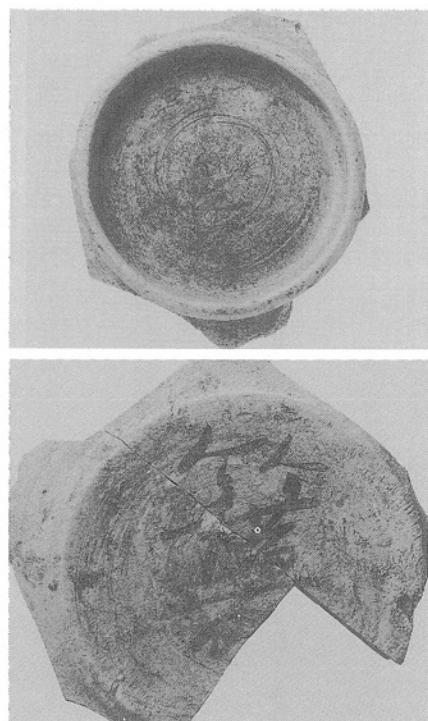
(67) × 30 × 5 061

釈文は表裏とも同文である。なお、木簡の釈読にあたっては、京都産業大学の井上満郎氏、京都大学の西山良平氏からご教示を得た。

(伊藤 漢)



表



「計帳所」

「籍所」



墨書土器 (1 : 2)